

# STEREO PREAMPLIFIER

## C-202

ステレオ・プリアンプ

取扱説明書



Accuphase

このたびはアキュフェーズ製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程及び結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

## お 願 い

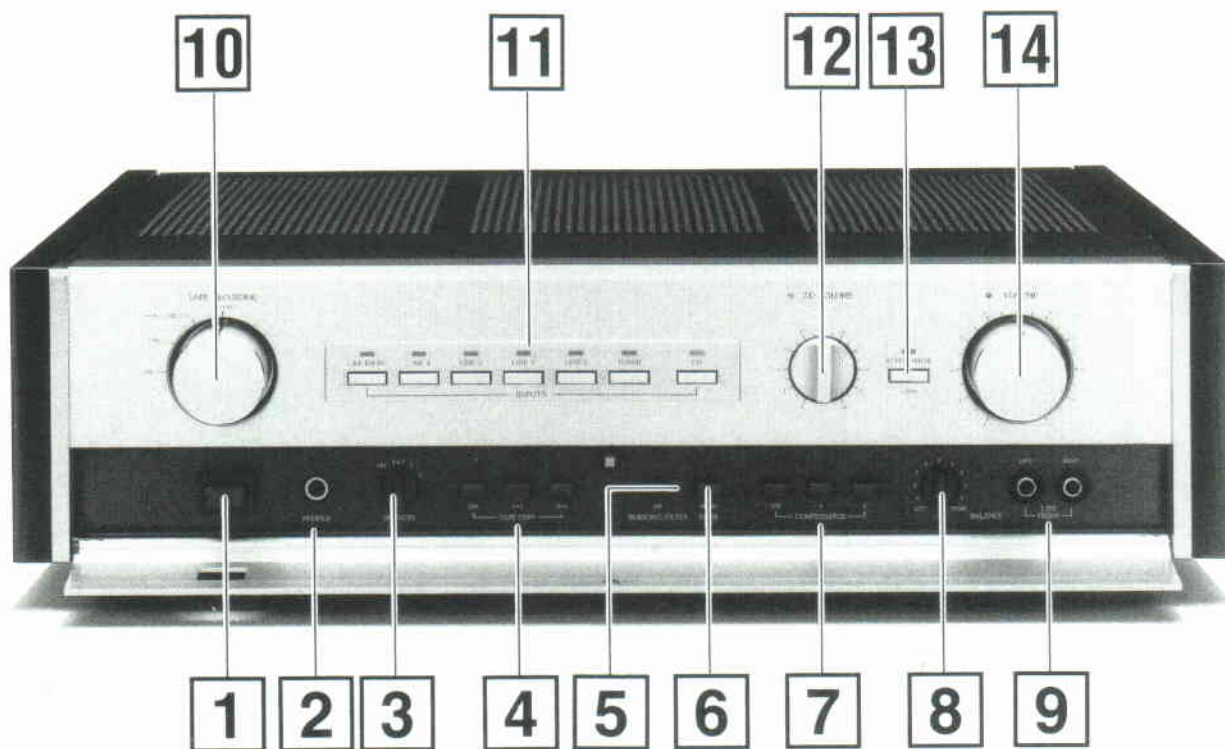
お客様カードを付属していますから、これに必要な事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内に）ご返送ください。お客様カードと引きかえに保質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

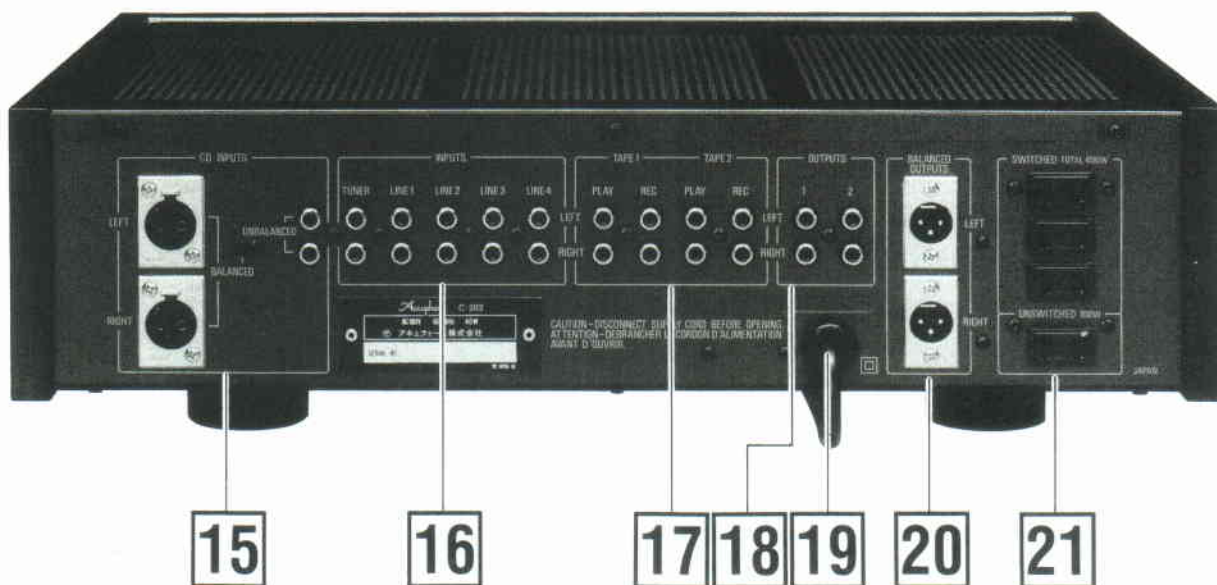
## 目 次

接続図	2
特長	3
各部の説明	4
ご使用方法	8
ご注意	10
保証特性	11
特性グラフ	12

フロントパネル



リアパネル

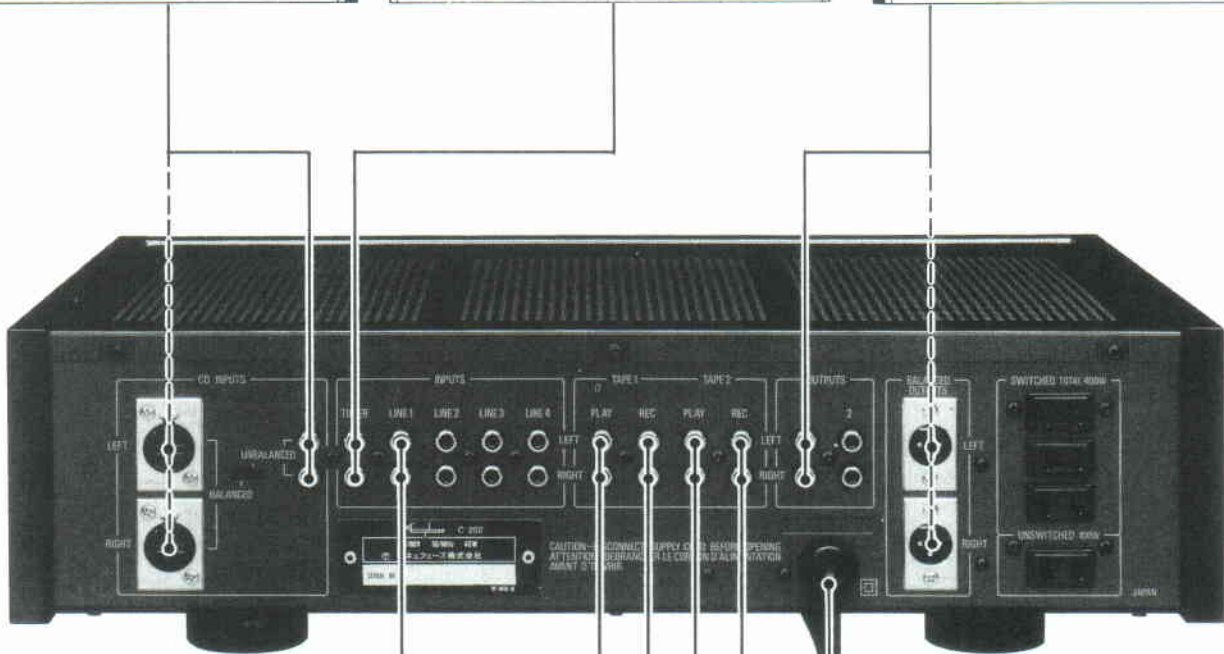


# 接続図

コンパクト・ディスク・プレーヤー

チューナー

パワーアンプ

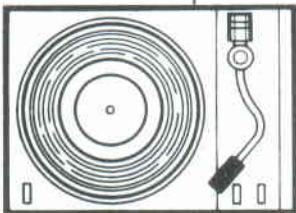


既存のプリアンプまたは  
フォノイコライザー・アンプ

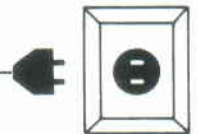


本機はフォノイコライザー・アンプを内蔵して  
いませんので、アナログ・ディスクの再生には  
既存のアンプのイコライザー出力(テープ録音  
出力: TAPE REC)をライン入力端子に入力  
して使用するか、イコライザー専用アンプを  
併用してください。

レコード・プレーヤー



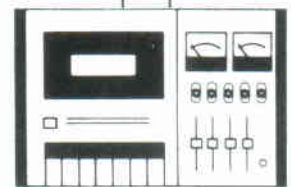
AC電源コード



AC 100V, 117V, 220V,  
240V 50/60Hz

LINE OUT

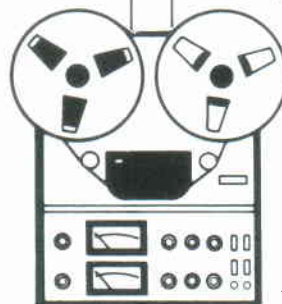
LINE IN



テープレコーダー-2

LINE OUT

LINE IN



テープレコーダー-1

# 特長

## ■CD専用 6 dBバッファー・アンプ、ライン専用 20dBアンプの左右 4 アンプ構成

CDを極限のクオリティーで再生するために、通常のライン・アンプとは別に、CD専用バッファー・アンプを内蔵しています。つまり、通常のハイゲイン・プリアンプとCD専用のバッファー・プリアンプの2組を一つの筐体にまとめたのが本機です。

CD専用アンプは全段A級プッシュアップのバランス回路で構成され、信号は入力端子からダイレクトに入り、ファンクションも音量調整とアッテネーターという必要最少限の機能にしました。このため信号経路は単純化され、音楽のディテールやステレオフォニックな音場を余すところなく再現します。

ライン専用アンプも全段A級プッシュアップで構成され純度の高い増幅を行ないます。

## ■構成を単純化し、極限の性能を追求したCD専用バランス型カスコードA級プッシュアップ・バッファー・アンプ

CDの信号経路にあるファンクションは、-20dBのアッテネーターと音量調整用ボリュームのみで他の機能は一切ありません。ただしテープレコーダーでの録音は通常のラインと同様に可能です。

このCD専用アンプの大きな特長はバランス入出力回路を備えていることです。バランス出力を持つCDプレーヤーとその入力回路を備えたパワーアンプに接続することによって理想的な平衡伝送が可能になります。

音質を決定する入力アンプはカスコード差動プッシュアップ回路にバランス信号を入力し、通常のアンプ入力時はコールド(-)側を後面パネルのスイッチでアースに接続します。ドライブ段もカスコード・プッシュアップを構成し、ひずみの少ない十分な駆動信号を出力段に供給し、低ひずみ広ダイナミックレンジを実現し、帯域外、特に超高域の特性を大幅に改善しています。

## ■8系統の多入力系と必要な機能を備えたカスコードA級プッシュアップ・ラインアンプ

ラインアンプ系の入力系は8系統(内テープ2、フロント入力1)と充実しました。機能は必要なもののみとし、出来るだけ単純化を図りました。テープモニター、テープコピー・スイッチ等の録音・再生機能、それに-20dBアッテネーター、モード・スイッチ、小音量時の量感を補正するコンペンセーター、サブソニック・フィルター、そして左右のレベルバランスをとるバランス・コントロール等が装備されています。

出力はCD系と同様で、バランス1系統、アンバランス2系統、そしてヘッドホン・ジャックを装備し、幅広い用途に適應します。

本機はフォノイコライザー・アンプを内蔵していませんので、アナログ・ディスクの再生には既存のアンプのイコライザー出力(テープ録音出力: TAPE REC)をライン入力端子に入力して使用するか、イコライザー専用アンプを併用してください。

## ■ロジック・リレーコントロールによりストレートで最短の信号経路

入力切り替えやテープモニター等のファンクションのために信号経路を引き回すことは、高域の劣化や不安定要素を誘発します。C-202はストレートで最短の信号経路を構成するため、切り替えが必要なその場所にリレーを設置し、これらのリレーをロジック回路で電子的にコントロールして切り替えを行なっています。

リレーの質がキーポイントになりますが、本機にはオーディオ用として特に開発された密閉型リレーを採用しました。接点はクロスバーツイン方式で、低接点抵抗、高耐久性の極めて質の高いものです。

## ■左右独立捲線、独立整流回路、そして各ユニットアンプ専用定電圧電源回路により干渉を遮断した強力電源部

信号電流は電源を通して元に戻るという循環を繰り返すので、電源回路も増幅系の一部と見なさなければなりません。従って、増幅回路に見合った良質で強力な電源が要求されます。

C-202は左右チャンネル専用のトランス捲線によって電力を供給し、専用の整流回路を構成しています。フィルター・コンデンサーはプリアンプとしては特に大容量の10,000 $\mu$ Fを4個使用し良質な直流電圧を得ています。

更に純粋で強力な電源にするために、各ユニットアンプのそれぞれに定電圧電源を設ける『マルチプル・パワーサプライ方式』を採用しました。これらの定電圧電源はそれぞれのユニットアンプの至近位置に配置されますので、超高域まで電源インピーダンスを低く保つことができ、安定した純度の高い増幅を可能にしています。

# 各部の動作説明

## 1 POWER—電源スイッチ

押し込んだ状態で電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約3.5秒間は、ミュートインク回路が作動しますので出力はありません。

## 2 PHONES—ヘッドホン出力ジャック

ステレオヘッドホンで聴くときに、この出力ジャックにヘッドホンのプラグを差し込んでください。インピーダンスが4～100Ωのヘッドホンをご使用ください。プラグを差し込んでも本機の3系統の出力信号は切れません。したがって、ヘッドホンだけで聴くときは、③OUTPUTS切替スイッチで出力を切るか、パワーアンプのレベルを下げてください。

## 3 OUTPUTS—出力切替スイッチ

このスイッチを“OFF”にすると、本機の3系統の出力信号が切れます。“1 & 2”、“1”および“2”の位置では、リアパネル⑱のOUTPUTS・1およびOUTPUTS・2の出力をそれぞれの出力端子から出したり、同時に出したりします。

リアパネル⑳のBALANCED OUTPUTS(平衡出力)の出力は、このスイッチを“OFF”にしない限り常時出ています。

## 4 TAPE COPY—テープコピー・スイッチ

テープレコーダーを2台使ってテープのコピーをするときにこのスイッチを使います。リアパネル㉑のTAPE・1に接続したテープレコーダーをマスターにしてTAPE・2のレコーダーでコピーをする場合は“1→2”のスイッチを押します。TAPE・2からTAPE・1へのコピーは逆で“2→1”を押します。

テープレコーダー相互間でコピーをするときは⑳TAPE RECORDERスイッチがREC OFFポジションにあってもかまいません。

コピーをしているときは⑳TAPE RECORDERスイッチが“REC OFF”または“SOURCE/REC ON”にあれば、他のプログラムソースを聴きながら全く独立してコピーを続行することができます。

また“1→2”でコピーをしているときにテープレコーダー・スイッチを“TAPE・1”にすると、TAPE・1の再生状態の確認、“TAPE・2”にするとコピーされたテープをモニ

ターしながらのコピーができます。TAPE・2からTAPE・1へのコピーも同じ要領です。

“1→2”と“2→1”ポジションのスイッチを押すと上にあるLED(発光ダイオード)が点灯します。

## 5 SUBSONIC FILTER—サブソニック・フィルター

サブソニック・フィルターは可聴帯域外の超低域10Hz以下を12dB/octという急峻な特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域を乱さないようにするフィルターです。超低域ノイズが目立つプログラムソースには大変有効です。

このフィルターは、⑪入力セクターが“CD”ポジションにあるときは作動しません。作動中はボタン上部のLEDが点灯します。

## 6 MODE—モード切替スイッチ

ステレオとモノフォニックの切り替えスイッチで、押してLED点灯で“MONO”つまりモノフォニックになり左右チャンネルの信号がミックスされますので、両スピーカーへ同じ信号が入力され、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。再びスイッチを押して“LED消灯”で通常のステレオ再生状態です。なお、録音を実行する場合は“MONO”状態では、レコーディング出力もモノフォニックになりますので注意してください。このスイッチも、入力セクターがCDポジションにあるときは作動しません。

## 7 COMPENSATOR—聴感補正スイッチ

小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスのくずれを補正するものです。

人の聴感特性はボリュームを下げたときに、その音量により低音感が不足してきたり、低音、高音共に不足して聴こえてきます。この不足分量感を補うためにこのスイッチが大変有効です。“1”では低音だけを100Hzで+3dB、“2”では100Hzで低音を+8dB、高音域を20kHzで+6dB増強します。それぞれのスイッチは押してONになりLEDが点灯します。このスイッチもCD再生時は作動しません。

## 8 BALANCE—バランス調整

右へまわすと左側の音が小さくなり、左へまわすと右側の音が小さくなります。ステレオ再生時の左右チャンネルの音量バランス調整に使用します。CD再生時は作動しません。

## 9 LINE FRONT—フロント側ライン入力端子

リアパネル⑬のライン入力端子と同じように、チューナー、テープレコーダー、CDプレーヤーなどラインレベルの出力電圧を持つ機器を接続することができます。この端子に接続した機器は⑪入力セクターの“LINE FRONT”を押して選択します。

## 10 TAPE RECORDER—テープモニター／録音出力ON/OFFスイッチ

このスイッチが、“REC OFF”および“SOURCE/REC ON”のポジションにあるときは、⑰TAPE PLAY端子以外の入力端子からの信号を再生することができます。つまり⑪の入力セクターで選択するプログラムソースを再生できます。したがって、テープ再生をしないときは、必ずこのスイッチを“REC OFF”または“SOURCE/REC ON”の状態にしておいてください。

テープ再生をするときは、リアパネル⑰の“TAPE-1”および“TAPE-2”に接続したテープレコーダーをこのスイッチで選択してお聴きください。“REC OFF”の状態ではリアパネル⑰テープレコーダー接続端子のレコーディング出力“REC”の信号は出力されません。テープレコーダーを使用しないときはこのポジションにしておいてください。

レコーディングをするときは、“SOURCE/REC ON”でプログラムソースのチェック、“TAPE-1”または“TAPE-2”へ切り替えると、録音しながら、そのとき録音している状況をモニターすることができます（3ヘッド・テープレコーダーの場合）。TAPE COPYスイッチを使ってテープレコーダー相互間で録音・再生をするときは“REC OFF”ポジションが押されていてもかまいません。

本機は極限的なCD再生のクオリティーを実現するために、CD再生時はボリュームを含んで別系統の増幅系が作動します。録音モニターをする場合は他のライン入力系のアンプ回路を使いますので、CD録音を実行中に“TAPE-1”や“TAPE-2”ポジションに切り替えてモニターをする場合の再生レベルは⑭VOLUMEで調整してください。TAPE-1

およびTAPE-2に切り替えてモニターをする場合は、CD再生時でも、サブソニック・フィルター、モード、コンペンセーターおよびバランス・ボリュームが有効になります。

なお、レコーディングをするときに⑥のMODEスイッチが“MONO”状態ではレコーディング出力信号もモノフォニックになりますので注意してください。

## 11 INPUTS—入力セクター

### ■CD—コンパクトディスク・セクター

リアパネル⑮のCD入力端子へ接続したCDプレーヤーの出力を選択するスイッチです。

CDポジションを選択した場合の出力レベルの調整は⑫CD VOLUMEで行ないます。

### ■TUNER—チューナー・セクター

使い易さの点で、リアパネル⑮の“TUNER”へはチューナーの出力を接続してください。TUNERもLINE入力端子も電気的には同じです。

### ■LINE-1～LINE FRONT—ライン入力セクター

リアパネル⑮およびフロントパネル⑨の各ライン入力端子へ接続した、チューナー、CDプレーヤー、テープレコーダーや映像機器のオーディオ出力を選択します。

## 12 CD VOLUME—CD専用ボリューム

極限的なCD再生時のクオリティーを追求した結果、本機ではCD専用の増幅回路を備えています。したがって、リアパネル⑮のCD INPUTS (BALANCED入力、UNBALANCED入力共)へ入力したCDプレーヤーのレベル調整はこのボリュームで行なってください。入力セクターを“CD”に切り替えるとボリュームの上にあるLED(発光ダイオード)が点灯します。

また、CD再生時にも拘らず⑩TAPE RECORDERスイッチを切り替えて録音中のCDをモニターするときのレベル調整は⑭のボリュームで行ないます。モニター状態へ切り替えるとCDボリュームの上に点灯しているLEDが⑭のボリュームへ切り替わります。CD専用ボリュームが有効なときは本機の付属回路、つまり、SUBSONIC FILTER、MODE、COMPENSATOR、BALANCEの各機能は作動しません。スイッチの上のLEDが点灯せず、作動していないことを表示します。

## 13 ATTENUATOR—アッテネーター

このスイッチを押すとLEDが点灯して“ON”となり出力レベルが20dB減衰します。ボリュームを一定のレベルにしておいて、比較試聴をするときなどの頭出しに便利です。また瞬時にレベルを下げるときにも有効です。再び押すとLED消灯で“OFF”です。

## 14 VOLUME—ライン・ボリューム

入力セクターで“CD”以外の入力を選択したとき、および録音状態のモニターをするときの再生レベルは、すべてこのボリュームで調整します。このボリュームが有効のときは上のLEDが点灯します。

## 15 CD INPUTS—CD入力端子

CDプレーヤーの出力信号をバランス(平衡)入力する場合は、XLRコネクター側(XLR-3-31相当型/XLR-3-12C相当品に適合)へケーブルを接続し、スライド・スイッチを必ず“BALANCED”側にしてください。通常のCDプレーヤー出力はアンバランス(不平衡)型ですから“UNBALANCED”側にし、RCAピンプラグを使って入力します。スライド・スイッチは入力方式にしたがって必ず切り替えてください。スイッチが誤った位置側では正しい出力は得られません。また、同時に両方へ入力しないようにしてください。CDプレーヤーの出力回路を破損する場合があります。

XLRタイプ・コネクターのピン接続は、①グラウンド、②コールド、③ホットになっています。

## 16 INPUTS—ライン入力端子

TUNER、LINE-1～LINE-4およびフロント側のLINE FRONTにはラインレベルの出力電圧を持つ機器を接続してください。

## 17 PLAY/REC—テープレコーダー 再生/録音端子

TAPE 1とTAPE 2それぞれにテープレコーダーを接続することができます。“PLAY”には、テープレコーダーのLINE OUTからの出力ケーブルを、“REC”にはLINE INからのケーブルを接続します。

REC端子の出力信号は、本機のボリュームやコンペンセーターの影響を受けませんが、MODEスイッチが“MONO”になっているときは、この出力もモノフォニック状態になります。録音時にはご注意ください。

## 18 OUTPUTS—出力端子(不平衡)

2系統の出力端子は、出力インピーダンス1Ω、一般の機器と同じアンバランス接続になっています。

通常はこの1系統を使って出力を取り出してパワーアンプへ導きます。同じ入力レベルに対して比較すると、㊸のXLRタイプ平衡出力端子より6dB低い出力電圧になっています。

## 19 AC電源コード

### ■AC電源の極性について

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。アンプのACプラグにもこのような極性があり、室内のACコンセントとアンプの極性を合わせた方が音質上良い結果が得られる場合があります。

C-202は、電源コード・プラグの片側に“W”の刻印が打たれています。このW側が接地側『W極』になっていますので、室内コンセントの極性がわかっている場合は、互いに合うように接続してください。なお、この極性は合わせなくても実用上問題になることはありません。

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)が『W極』ですが、工事をした時期、工事会社によって守られていない場合も多いので、不明のときはチェッカーで確認をする必要があります。

本機のSWITCHED/UNSWITCHED AC電源コンセントも向かって左側が『W極』になっています。

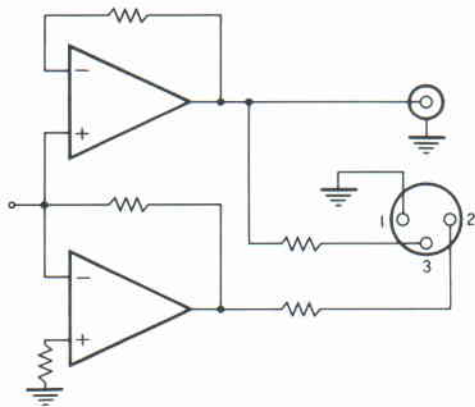


### ■AC電源電圧の変更とヒューズについて

C-202は使用できる電源電圧を100V、117V、220V及び240Vの4段階に切り替えられます。C-202の底板側、電源トランスの下にあるジャンクション・ターミナルで接続変更をする必要があります。また電源1次側のヒューズも、ジャンクション・ターミナルの近くについていますが、**電源電圧の変更やヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、弊社の品質保証課、またはお求めの専門店へご連絡くださいますよう、お願いいたします。**

## 20 BALANCED OUTPUTS—バランス出力コネクタ(平衡出力)

このXLRタイプ出力コネクタ(XLR-3-32相当型)は、出力インピーダンス50Ωのバランス(平衡)接続になっています。入力インピーダンスが600Ω以上のパワーアンプ、その他の機器を接続することができます。ピン接続は、①グラウンド、②コールド、③ホットで、適合コネクタはXLR-3-11C相当品です。



なお、XLRタイプ・コネクタを使用した入力端子でも、アンバランス(不平衡)型になっているものがあります。バランス入力になっていない場合は、本機の出力回路が故障する原因になります。アキュフェーズ・パワーアンプにおいてはM-100、M-60、P-400がアンバランス型の入力です。これらの機種とC-202をXLRコネクタで接続するときは、弊社の品質保証課、またはお求めの専門店へご相談くださいますよう、お願いいたします。

## 21 ACアウトレット

### ■SWITCHED—電源スイッチと連動するコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチでON/OFFを一斉に行なうことができます。接続する機器の消費電力の合計が400Wを越えないように注意してください。

### ■UNSWITCHED—電源スイッチと連動しないコンセント

本機の電源コードを室内のACコンセントに接続すると、電源スイッチのON/OFFに関係なく、他の機器へ電源を供給することができます。消費電力が100Wを越えないように注意してください。

# ご使用方法

## ■CD(コンパクト・ディスク)をお楽しみになる場合

CDプレーヤーの出力ケーブルをLEFT(左)、RIGHT(右)共に正しく、リアパネル⑮のCD入力端子に接続してください。CDプレーヤーを2台以上お持ちのときは、⑮の各入力端子も同じ働きをします。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、伝送途中での雑音妨害に強みを発揮する、『CD INPUTS(BALANCED)』端子をご使用になることをお勧めします。なお、**CDプレーヤーの出力をバランスとアンバランス入力端子へ同時に入力することは避けてください。**接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

- ① CDプレーヤーやパワーアンプと本機の接続を確認し、⑫と⑭のボリュームを下げて、本機と共にCDプレーヤーやパワーアンプの電源スイッチを“ON”にしてください。
- ② 入力セレクター⑪の“CD”ポジション(または入力したポジション)を選択してください。
- ③ TAPE RECORDERスイッチ⑩が、“REC OFF”または“SOURCE/REC ON”、それに⑬のATTENUATORスイッチが“OFF”、③OUTPUTSスイッチが“1 & 2”になっていることを確認してください。
- ④ CDプレーヤーを再生状態にして、⑫CD専用VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。CD入力端子以外へ入力したCDプレーヤーの音量調整は⑭VOLUMEで行ないません。

CDプレーヤーの出力をCD INPUTS⑮へ入力してCDの高音質再生をする場合は、サブパネル内⑤サブソニック・フィルターから⑧のバランス・コントロールまでの機能は使用できません。

## ■チューナーで放送を聴く場合

チューナーの出力ケーブルが正しく⑯TUNER端子へ接続されていることを確認してください。チューナーの出力ケーブルは必ずしも“TUNER”へ入力する必要はありません。

- ① CD再生と同じ要領でTAPE RECORDERスイッチやATTENUATORなどの確認をして⑪入力セレクターで入力したポジションを選択してください。
- ② チューナーで選局し、⑭VOLUMEを上げれば放送が聴こえてきます。

リアパネル⑮の各入力端子とサブパネル⑨へ入力した機器の音量調整は⑭のVOLUMEで行ないません。このボリュームで音量調整をする信号(ボリューム上のLED点灯)はサブソニック・フィルター、モード、コンベンセーター、バランス等すべての機能が作動します。

## ■テープレコーダーで録音・再生をする場合

リアパネル⑰のTAPE-1(2台接続するときはTAPE-2へも)の“REC”端子とテープレコーダーの“LINE IN”端子、“PLAY”と“LINE OUT”端子が左右共に正しく接続されていることを確認してください。

### 【再生：プレーバック】

テープレコーダーをテープ再生状態にして、フロントパネル⑩TAPE RECORDERスイッチで“TAPE-1”または“TAPE-2”を選択してください。入力セレクターがどの位置にあってもテープを聴くことができます。

TAPE RECORDERスイッチでテープ再生をするときは⑭のボリュームで音量調整を行ないません。“REC OFF”または“SOURCE/REC ON”にすると、そのとき入力セレクターで選択しているプログラムソースに戻ります。

### 【録音：レコーディング】

レコーディングをする場合は、次の手順で行なってください。

- ① プログラムソースを選び、スピーカーから音を出して確認しておいてください。
- ② TAPE RECORDERスイッチをSOURCE/REC ONにして録音出力を“ON状態”にしてください。
- ③ テープレコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- ④ 本機のボリューム(両方共)やコンベンセーター、サブソニック・フィルターなどは、録音される音には一切関係しません。従って、音量を下げて静かに録音することもできます。録音レベルはテープレコーダー側で調整してください。ただし、MONOスイッチが押されている場合の録音出力は、セレクター・ポジションが“CD”以外は、モノフォニック出力になってしまいますので注意してください。

- ⑤ 録音中にTAPE RECORDERスイッチを“SOURCE/REC ON”にすればプログラムソースのチェック、“TAPE-1”（またはTAPE-2）へ切り替えると録音中のテープのモニターが録音しながらできます（3ヘッド・テープレコーダーの場合）。入力セレクターで“CD”を選択し、これを録音しているときのモニターの再生レベルは⑭のボリュームで行ないます。モニター状態へ切り替えるとボリューム上のLEDも切り替わります。
- ⑥ 2台のテープレコーダーで同時録音も可能です。

### 【テープコピー】

本機はテープコピー・スイッチを装備していますから、ディスクや放送を聴きながら、まったく独立してテープのコピーができます。テープのコピーを作るときは次の手順で行なってください。

- ① TAPE-1をマスターとしてTAPE-2側でコピーを作る場合は、TAPE COPYスイッチ④の“1→2”を押します。逆の場合は“2→1”を押します。
- ② マスター側のテープレコーダーを再生状態、コピー側のテープレコーダーを録音状態にしてください。
- ③ TAPE-1→TAPE-2でテープコピーをしている場合は、⑩TAPE RECORDERスイッチを“TAPE-1”にするとマスター・テープの音が、“TAPE-2”にすると録音状態をモニターしながらコピーを続けることができます。TAPE-2→TAPE-1のときは逆になります。
- ④ コピーが進行しているときでも、TAPE RECORDERスイッチが“SOURCE/REC ON”または“REC OFF”にあるときは、コピーとは無関係にディスクやチューナーを聴くことができます。

### アナログ・ディスク・プレーヤーを接続してLPレコードを聴くことはできません

本機はフォノイコライザー・アンプを内蔵していませんので、LPレコードを再生する場合は、お手持ちのプリアンプやプリメイン・アンプにアナログ・プレーヤーを接続し、そのアンプの『TAPE REC：テープ録音出力』を⑯の各ライン系入力端子へ入力して使用するか、イコライザー専用アンプを併用してください。

# ご注意

## ■CD BALANCED入力とCD UNBALANCED入力端子へ同時に入力しないようにしてください

本機の“CD INPUTS”は、バランス入力とアンバランス入力をスライド・スイッチで切り替えて使用するようになっています。

CDプレーヤーの出力方式にしたがって、スライド・スイッチを必ず“UNBALANCED”または“BALANCED”に切り替えて使用してください。

この場合に同時に入力すると、両方の信号が混入したり、他の機器の出力回路を破損する場合がありますので絶対に避けてください。

## ■発熱と使用上のご注意

本機の各ユニットアンプ回路は全段がA級ドライブになっていますので発熱があり、通電時間が長くなったり室内の温度が高い場合、ケース上面を触ると熱く感じますが、性能や耐久性には全く支障ありません。回路部品、機構部品や構造などへの熱に対する配慮は十分に行なっていますが、狭くて通風の悪い場所への設置は避けてください。また、直射日光の当たる所や、暖房器具の近くへの設置も避けるようにしてください。

## ■入出力ケーブルを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから行なってください

RCAタイプのピンプラグ(通常のオーディオ機器に使用されているもの)を端子から抜き差しするときは、プラス側、マイナス側ともに同時に入ったり切れたりせず、プラス側が先に入ったり、残ったりする構造のため、一瞬マイナス側が浮いた状態になって大きなショックノイズを発生し、スピーカーを破損する原因になります。

各機器間の入出力ケーブルを抜き差しする場合は、必ず電源をOFFにしてから行なってください。

## ■パーシモン・サイドボードについて

本機はパーシモンの美しい木目を活かしたサイドボードがついています。サイドボードやパネル面の汚れを取るときは、硬くしぼった柔らかい布で丁寧に水拭きをしてください。

# 保証特性

【保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる】

## ■CD系

### 周波数特性

1.0~400,000Hz	+0、-3.0dB
20~20,000Hz	+0、-0.2dB

### 全高調波ひずみ率

0.005%

### 入力感度

平衡入力	1.0V
不平衡入力	1.0V

### 入力インピーダンス

平衡入力	40k $\Omega$
不平衡入力	20k $\Omega$

### 定格出力

平衡出力	4.0V
不平衡出力	2.0V

### 出力インピーダンス

平衡出力	50 $\Omega$
不平衡出力	1 $\Omega$

### ヘッドホーン端子

適合インピーダンス 4~100 $\Omega$

### 利得

平衡入力 → 平衡出力	12dB
平衡入力 → 不平衡出力	6dB
不平衡入力 → 平衡出力	12dB
不平衡入力 → 不平衡出力	6dB

### S/N・入力換算雑音

定格入力時(入力ショート・A-補正)	108dB
入力換算雑音(入力ショート・A-補正)	-108dBV
EIA S/N	97dB

### 最大出力レベル

平衡出力	10V
不平衡出力	5V

### 最大入力レベル

平衡入力	10V
不平衡入力	8V

### 最小負荷インピーダンス

平衡出力	600 $\Omega$
不平衡出力	1k $\Omega$
TAPE REC	10k $\Omega$

### アッテネーター

-20dB

## ■LINE系

### 周波数特性

1.0~500,000Hz	+0、-3.0dB
20 ~ 20,000Hz	+0、-0.2dB

### 全高調波ひずみ率

0.005%

### 入力感度

200mV

### 入力インピーダンス

20k $\Omega$

### 定格出力

平衡出力	4.0V
不平衡出力	2.0V

### 出力インピーダンス

平衡出力	50 $\Omega$
不平衡出力	1 $\Omega$

### ヘッドホーン端子

適合インピーダンス 4~100 $\Omega$

### 利得

平衡出力	26dB
不平衡出力	20dB

### S/N・入力換算雑音

定格入力時(入力ショート・A-補正)	110dB
入力換算雑音(入力ショート・A-補正)	-128dBV
EIA S/N	94dB

### 最大出力レベル

平衡出力	10V
不平衡出力	5V

### 最小負荷インピーダンス

平衡出力	600 $\Omega$
不平衡出力	1k $\Omega$
TAPE REC	10k $\Omega$

### アッテネーター

-20dB

### ラウドネス・コンペンセーター(音量調整 -30dB)

1	: +3dB(100Hz)
2	: +8dB(100Hz)、+6dB(20kHz)

### サブソニック・フィルター

10Hz -12dB/oct

### 使用半導体

110 Tr, 54 FET, 12 IC, 79 Di

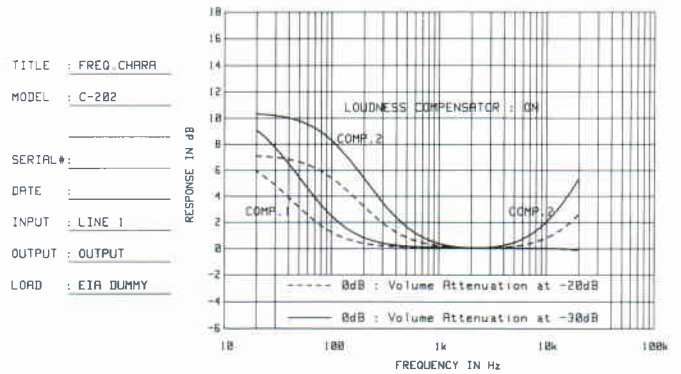
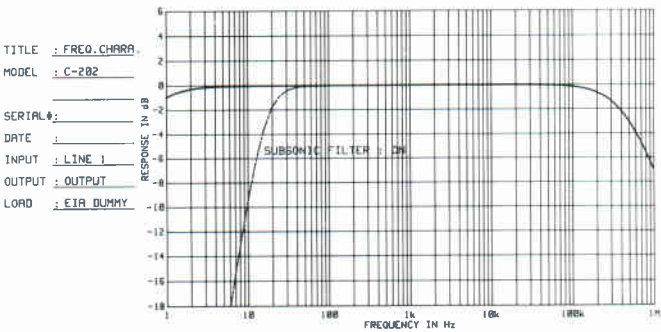
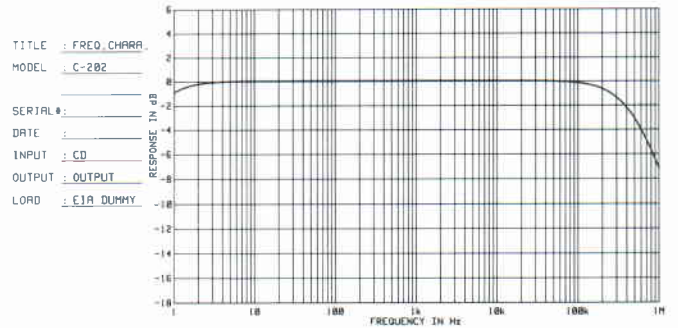
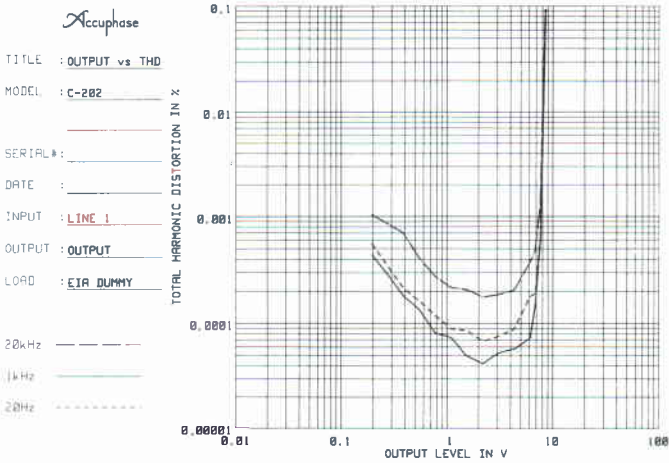
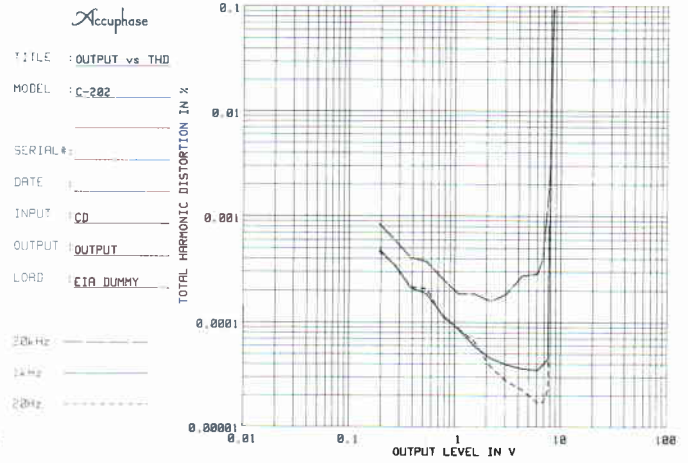
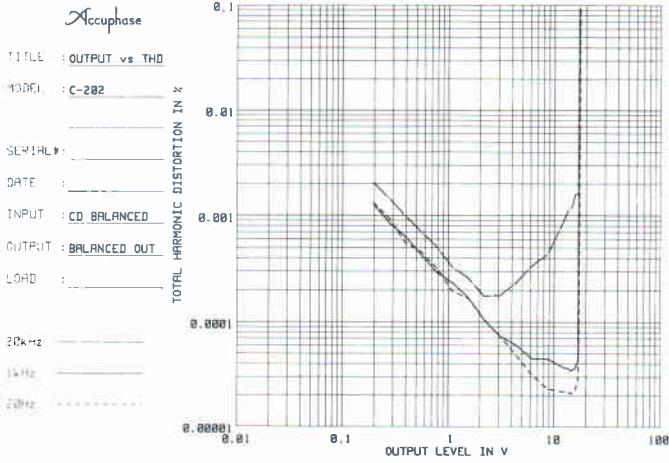
### 電源・消費電力

100V、117V、220V、240V 50/60Hz 40W

### 寸法・重量

幅475mm×高さ(脚含む)135mm×奥行373mm 11kg

## 特性グラフ



Accuphase

ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市緑区新石川2-14-10

〒227 TEL(045)901-2771(代表)